MINATO CITY

麻布未来写真館

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会

令和 3 年度（2021 年度）活動報告

港区麻布地区総合支所

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会
令和３年度（2021 年度）活動報告

はじめに

本活動報告は、麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会が、これまでに取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」が含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆さんの地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

令和４年３月　港区麻布地区総合支所協働推進課

《　目　次　》

はじめに
Ⅰ　分科会活動の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 01
「麻布未来写真館」とは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 01
分科会活動記録（令和３年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 02
Ⅱ　分科会メンバー作成パネルの紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 03
パネルの作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 03
Ⅲ　これまでの活動を振り返って ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
メンバーのことば ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

区民参画組織「麻布を語る会」とは

麻布地区総合支所では、平成 18 年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区のめざすまちの姿「誰もが主役になれる参画と協働のまち ～未来につなぐニューノーマルを創造する “AZABU” ～」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、令和４年３月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区政策」・「地域情報の発信」の３つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な活動を行っています。

「麻布未来写真館」とは

「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。

麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残るなど歴史と文化の「まち」でもあります。一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。

こうした大規模なまちづくりにより「まち」が変化していくなかで、貴重な歴史的・文化的資産を次世代へ伝えていくとともに、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

麻布地区総合支所では、平成 21 年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

広報紙等の募集を通じて集まった「区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」のメンバーとともに、収集した資料等を活用したパネル作成に向けたワーキング、まち歩きによる「まち」の変化の撮影やこれまでに作成したパネル等の発信、事業の周知に向けた検討等を実施しました。

また、分科会メンバーが作成したパネルは、大学や企業等の協力のもと、「パネル展（常設展示・企画展示）」により広く公開しています。

分科会でのパネル作成に向けたワーキング

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会 メンバー

荒澤 經子、　入江 誠［副座長］、　及川 廣子、　大原 美帆、　岡﨑 純子、　加藤 生磨、　近藤 敏康［座長］、
鈴木 順二［副座長］、　田岡 恵美、　椿 由美子、　野村 知義、　廣瀬 能華、　水野 禮子、　宮崎 則行、
吉川 一郎、　街いく探検隊（若松 保治）、　石井 諒太［見学者］

50 音順（令和 4 年 3 月 1 日現在）

I　分科会活動の概要

分科会活動記録（令和 3 年度）

令和 3 年	4 月 13 日（火）	プレ分科会：自己紹介、情報交換等
	6 月　5 日（土）	パネル展①：高陵中学校創立 70 周年イベント（～ 12 月）
	6 月 22 日（火）	パネル展②：麻布地区総合支所（～ 7/30）
	6 月 25 日（金）	第 1 回分科会：令和 3 年度の活動等について
	7 月 上旬～	第 2 回分科会：まち歩き（撮影）A 日程（自主撮影にて実施）
	7 月 29 日（木）	第 3 回分科会：撮影レビュー、令和 3 年度の活動について等
	8 月 上旬～	第 2 回分科会：まち歩き（撮影）B 日程（自主撮影にて実施）
	9 月　9 日（木）	第 4 回分科会：令和 3 年度のスケジュールと活動について
	9 月 17 日（金）	パネル展③：青山霊園管理所（～ 11/5）
	10 月　7 日（木）	第 5 回分科会：連携イベントやまち歩き（撮影）について
	10 月 11 日（月）	パネル展④：麻布地区管内いきいきプラザ巡回展（～ 10 月末）
	10 月 21 日（木）	「ちょこっと立ち寄りカフェ」との連携イベント
	10 月 31 日（日）	第 6 回分科会：まち歩き（撮影）A 日程
	11 月　6 日（土）	第 6 回分科会：まち歩き（撮影）B 日程
	11 月 18 日（木）	第 7 回分科会：撮影レビュー、パネル展に向けた検討
	12 月　1 日（水）	パネル展⑤：麻布地区総合支所
	12 月 23 日（木）	第 8 回分科会：パネル展に向けた検討と作業
令和 4 年	1 月　5 日（水）	パネル展⑥：区役所ロビー（～ 1/14）
	1 月 20 日（木）	第 9 回分科会：パネル展に向けた検討と作業
	2 月　4 日（金）	パネル展⑦：フジフイルムスクエア ミニギャラリー（～ 3/3）
	2 月 17 日（木）	第 10 回分科会：パネル作成・活動報告について等
	3 月 15 日（火）	第 11 回分科会：令和 3 年度の活動と次年度以降に向けて

パネル展の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、これまでも開催してきた「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示しました。

事業開始から 13 年目を迎え、分科会メンバーの尽力とともに、地域の様々な方から、写真等のご提供など多大なご支援とご協力を賜り、令和 3 年度はパネル展を延べ 7 回開催しました。

また、常設の展示として、都立中央図書館、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース、港区麻布地区総合支所 2 階の通路及び麻布区民協働スペースロビーでの展示を行っています。

「ちょこっと立ち寄りカフェ」との連携イベント

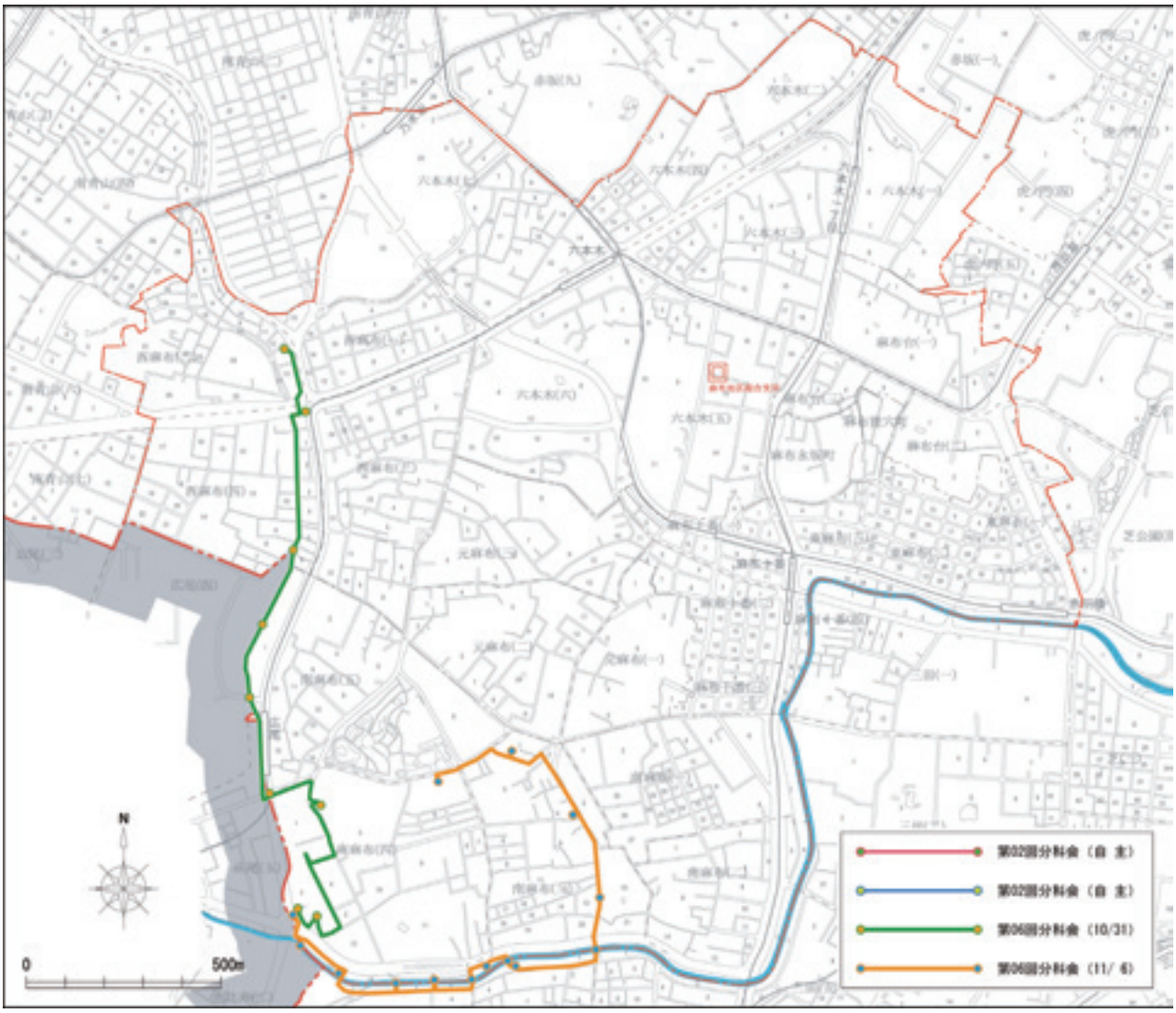
フジフイルムスクエアでのパネル展

パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「分科会メンバー作成パネルの紹介」には、分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。

まち歩き（撮影）ルート図



写真について

これまで作成した多くのパネルで新旧の比較を行っていますが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていません。また、変化の様子をとらえるために、あえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図としました。

なお、写真に写っている個人や所有（車等）の特定を避けるため、さらに、撮影条件や画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部加えています。

都立青山公園 南地区の今昔　近隣のヘリポート

昭和49年（1974年）7月：青山公園 予定地
公園の高台から金網越しに眺めた拡張予定地および米軍ヘリポート、西麻布方面。正面には、現存する東京日産ビル（現在の六本木ヒルズ・ノースタワー）、東豊エステート（マンション、六本木七丁目）、金谷ホテルマンション（西麻布三丁目）などが見える。
なお、この写真が撮影された時代にはデジタルカメラはまだ製品化されておらず、一般人がパノラマ写真を作る際は、このように複数のプリントをつなげる方法がとられた。

昭和52年（1977年）12月：環状3号 予定地との境界（南）
公園の高台から眺めた米軍ヘリポートと西麻布方面。遠くのビルの屋上には「第一勧銀」「北辰食品」などの看板が立つ。首都高3号線と現在の環状3号線・麻布トンネル（六本木六丁目）も見える。

令和2年（2020年）：現在の公園の高台から眺めた西麻布方面
手前は米軍ヘリポート。再開発が進み、高層ビルが林立している。

昭和52年（1977年）12月：ヘリポート跡とPXガレージ
公園の高台から眺めた北側（左）と東側（右）。「PXガレージ」は、中央に見える平屋の建物と思われる。米軍の自動車修理工場だったのかもしれない。その奥に見える幅広の窓のある建物が、三連隊の兵舎（昭和3年（1928年）竣工）。この写真の撮影当時は東京大学生産技術研究所が使用しており、一部を残して解体後、ここに国立新美術館が建設された（平成19年（2007年）開館）。右端の建物は東京大学物性研究所で、跡地には政策研究大学院大学が建っている。

都立青山公園南地区（六本木七丁目）には、その昔陸軍の施設があった。高台に巨大な鉄筋コンクリート造の兵舎を構える陸軍第一師団歩兵第三連隊（三連隊）の敷地だったのだ。兵舎より土地が一段低く青山墓地に面しているこの区域には、射撃場や裏門が設けられていた。墓地との間に東京市電の線路が走り、裏門のそばには「三連隊裏」という停留所があった。

第二次世界大戦後、三連隊の施設は連合国軍、いわゆる進駐軍により接収され、約10年間米軍が使用していた。「ハーディーバラックス」と呼ばれ、兵舎、米軍新聞社、自動車修理工場、プールなどがあった。昭和33年（1958年）に接収が解除されると、現在の南地区の部分が国から公園用地として東京都に無償貸付され、昭和45年（1970年）に「青山公園」が開園した。ただ、接収解除後も、南側から東側にかけては米軍の新聞社、ヘリポートなどが残り、これらは現在も存続している。

その後青山公園は少しずつ開園部分が広がり、今日その面積は北地区（南青山一丁目）と合わせて4万平方メートルに達する。

ここにお目にかけるのは、都立青山公園管理所から提供された昭和50年ごろの青山公園および周辺の写真と、現在の公園の姿である。

このパネルに掲載されている古い写真について／写真提供：都立青山公園管理所

都立青山公園 南地区の今昔　見晴台の周辺

昭和52年（1977年）8月：青山公園
公園の高台に設けられたパーゴラから見た西麻布方面。左下に写っている台形をした施設は、「青山公園平面図（東京都南部公園緑地事務所、昭和49年（1974年））」では、「砂場」として描かれている。この施設は米軍ヘリポートを西に移動させる工事に伴い、消滅した。

令和2年（2020年）：左の地点の現況
正面に米軍ヘリポートが広がる。公園とヘリポートの間には、長い間金網のフェンスがあったが、近年頑丈な柵に変えられた。

昭和52年（1977年）8月：青山公園
「砂場」の南端から見た北側。一番奥に三連隊の兵舎、その手前にパーゴラと施設（現存）が写っている。その後、手前の広い空間はすべてヘリポートに変わった。
なお、この写真が撮影された時代にはデジタルカメラはまだ製品化されておらず、一般人がパノラマ写真を作る際は、このように複数のプリントをつなげる方法がとられた。

昭和52年（1977年）12月：環状3号 予定地との境界（北）
現在の南地区の北端から見た青山霊園方面。右の建物は日本学術会議。

令和2年（2020年）：左の地点の現況
右に伸びる道路が環状3号線。

都立青山公園南地区（六本木七丁目）には、その昔陸軍の施設があった。高台に巨大な鉄筋コンクリート造の兵舎を構える陸軍第一師団歩兵第三連隊（三連隊）の敷地だったのだ。兵舎より土地が一段低く青山墓地に面しているこの区域には、射撃場や裏門が設けられていた。墓地との間に東京市電の線路が走り、裏門のそばには「三連隊裏」という停留所があった。

第二次世界大戦後、三連隊の施設は連合国軍、いわゆる進駐軍により接収され、約10年間米軍が使用していた。「ハーディーバラックス」と呼ばれ、兵舎、米軍新聞社、自動車修理工場、プールなどがあった。昭和33年（1958年）に接収が解除されると、現在の南地区の部分が国から公園用地として東京都に無償貸付され、昭和45年（1970年）に「青山公園」が開園した。ただ、接収解除後も、南側から東側にかけては米軍の新聞社、ヘリポートなどが残り、これらは現在も存続している。

その後青山公園は少しずつ開園部分が広がり、今日その面積は北地区（南青山一丁目）と合わせて4万平方メートルに達する。

ここにお目にかけるのは、都立青山公園管理所から提供された昭和50年ごろの青山公園および周辺の写真と、現在の公園の姿である。

このパネルに掲載されている古い写真について／写真提供：都立青山公園管理所

都立青山公園 南地区の今昔　遊具広場の周辺

昭和53年（1978年）9月：青山公園
公園の南端から見た西麻布方面。白い大きな建物は米軍新聞社。この建物は外壁が塗り替えられて現存するが、高い煙突はもはやない。その後、手前の空地には樹木が植えられた。
なお、この写真が撮影された時代にはデジタルカメラはまだ製品化されておらず、一般人がパノラマ写真を作る際は、このように複数のプリントをつなげる方法がとられた。

令和2年（2020年）：上の写真の場所の現況
樹木が大きく育っている。柵よりたは米軍ヘリポート。

昭和52年（1977年）8月：ハーディバラックス跡
遠方の線は青山霊園。写真の右端には、北側のグラウンドの様子が鉛筆で描き加えられている。写真左側は以前の遊具。ハーディーバラックスの時代、ここには米軍関係者が使うプールがあった。

令和2年（2020年）：上の写真の場所の現況
白い建物の1階入口には、今日でも"HARDY BARRACKS"の表示がある。

都立青山公園南地区（六本木七丁目）には、その昔陸軍の施設があった。高台に巨大な鉄筋コンクリート造の兵舎を構える陸軍第一師団歩兵第三連隊（三連隊）の敷地だったのだ。兵舎より土地が一段低く青山墓地に面しているこの区域には、射撃場や裏門が設けられていた。墓地との間に東京市電の線路が走り、裏門のそばには「三連隊裏」という停留所があった。

第二次世界大戦後、三連隊の施設は連合国軍、いわゆる進駐軍により接収され、約10年間米軍が使用していた。「ハーディーバラックス」と呼ばれ、兵舎、米軍新聞社、自動車修理工場、プールなどがあった。昭和33年（1958年）に接収が解除されると、現在の南地区の部分が国から公園用地として東京都に無償貸付され、昭和45年（1970年）に「青山公園」が開園した。ただ、接収解除後も、南側から東側にかけては米軍の新聞社、ヘリポートなどが残り、これらは現在も存続している。

その後青山公園は少しずつ開園部分が広がり、今日その面積は北地区（南青山一丁目）と合わせて4万平方メートルに達する。

ここにお目にかけるのは、都立青山公園管理所から提供された昭和50年ごろの青山公園および周辺の写真と、現在の公園の姿である。

このパネルに掲載されている古い写真について／写真提供：都立青山公園管理所

都立青山公園 南地区の今昔　グラウンドの周辺

昭和37年（1962年）：都電7番線（品川駅前～四谷三丁目）
線路の向こう側が現在の青山公園グラウンド。この写真の撮影当時、すでに米軍による接収は解除されていたが、青山公園はまだ開園していない。高台に建つ三連隊兵舎には、この年、東京大学生産技術研究所が移転してきた。かつてこの辺りに、東京市電「三連隊裏」停留所があった。（出典：『みなと写真散歩』）

令和2年（2020年）：公園のグラウンドは、スポーツ練習などに使われている。

令和2年（2020年）：南地区の北端には、災害時に給水ステーションとなる施設が建っている。

衛星画像（2020年）で見た青山公園南地区とその周辺。赤い部分は、昭和49年（1974年）当時の青山公園の主要な区域。右上の一部がその後米軍ヘリポートに変わったのがわかる。

都立青山公園南地区（六本木七丁目）には、その昔陸軍の施設があった。高台に巨大な鉄筋コンクリート造の兵舎を構える陸軍第一師団歩兵第三連隊（三連隊）の敷地だったのだ。兵舎より土地が一段低く青山墓地に面しているこの区域には、射撃場や裏門が設けられていた。墓地との間に東京市電の線路が走り、裏門のそばには「三連隊裏」という停留所があった。

第二次世界大戦後、三連隊の施設は連合国軍、いわゆる進駐軍により接収され、約10年間米軍が使用していた。「ハーディーバラックス」と呼ばれ、兵舎、米軍新聞社、自動車修理工場、プールなどがあった。昭和33年（1958年）に接収が解除されると、現在の南地区の部分が国から公園用地として東京都に無償貸付され、昭和45年（1970年）に「青山公園」が開園した。ただ、接収解除後も、南側から東側にかけては米軍の新聞社、ヘリポートなどが残り、これらは現在も存続している。

その後青山公園は少しずつ開園部分が広がり、今日その面積は北地区（南青山一丁目）と合わせて4万平方メートルに達する。

このパネルに掲載されている古い写真について／写真提供：港区郷土歴史館

再開発中の我善坊一帯を望む

令和元年（2019 年）12 月 15 日

仙石山テラスの植栽スペースから東の方向を撮影したもの。更地になった再開発事業の計画地のところどころに建設機械が点在している。

整地が進められている様子がわかる。

見晴らしの良い植栽スペース。
中には実をつけた果樹も。

令和元年（2019年）8月、30年もの年月をかけて計画を進めてきたという虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業の工事が始まりました。麻布未来写真館では、同事業の計画地に含まれていた我善坊の街並みを長年にわたって撮影してきました。木造家屋が建ち並び、細い路地が走る風景は昭和の面影を感じさせたものです。

着工から4ヵ月後の12月、飯倉町会の小林徹会長のご協力のもと、アークヒルズ仙石山テラス（虎ノ門5丁目）に入館、我善坊をはじめ計画地一帯を見渡すことができる南側の植栽スペースから開発の様子を撮影しました。

令和5年（2023年）3月の竣工に向かって少しずつ進んでいく開発。超高層ビルと豊かな緑が調和した新しい街の誕生に思いを馳せつつ、これからも見守っていきたいと思います。

元旦の朝、地上200mから見た初日の出、初麻布

令和２年（2020年）１月１日

空を飛ぶ鳥の目で見た元旦の朝の街。左手にはすっくと聳える六本木ヒルズ森タワー（高さ238m）、中央には渋谷スクランブルスクエア（同約230m）をはじめとする渋谷駅周辺の超高層ビル群が見える。

東京湾上空、雲の切れ間に顔を出した太陽。

再開発中の我善坊一帯（手前中央）。

展望回廊にて、東京タワーのあざやかなオレンジ色が映える。

展望回廊をぐるりとまわると、はるか向こうに筑波山が見えた。

撮影に臨んだメンバーと飯倉町会の小林徹会長（右から2人目）。

令和2年（2020年）元旦、飯倉町会の小林徹会長のご協力により、アークヒルズ仙石山森タワー（六本木1丁目、虎ノ門5丁目）の屋上から初日の出を眺め、再開発工事が進む我善坊一帯をはじめ、街の姿を俯瞰で撮影する機会を得ました。

早朝、同タワーの地下1階で待ち合わせた一行。外はまだ薄暗く、これから始まろうとしている初日の出との対面に胸が躍りました。小林会長のあとに続いてエレベーターに乗り込み、地上約200mの高さにある屋上フロアへ。

ルーフデッキに出ると、眠りから覚めてほどない東京の街と東京湾を一望する開放的な風景が広がっていました。空を覆う雲の切れ間から太陽が顔を出したときの嬉しさ、ルーフデッキから続く展望回廊をめぐり、360度の視点で見渡した東京の風景など、忘れがたい新年の幕開けとなりました。

緊急事態宣言

令和２年（2020年）４月７日～令和２年（2020年）５月25日

新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年（2020年）4月7日に初の緊急事態宣言が発出されました。緊急事態宣言の発出を受け、令和2年（2020年）4月8日から六本木ヒルズのほぼ全ての商業施設も臨時休業に入りました。港区内の小中高校は令和2年（2020年）3月7日からすでに臨時休校に入り、企業へ出勤者7割減の要請もあり、商業施設だけでなく公園からも人の気配がなくなりました。スーパーやコンビニ、ドラッグストアなどの生活物資を提供するお店では、感染防止対策として、入店人数を制限したり、入口と出口を分ける、入店時にマスク必須、手指消毒をするなどのルールや工夫がされ、それらを「新しい生活様式」と呼びました。

令和2年（2020年）5月16日（土）18時：日中にも関わらず人影が全くない六本木ヒルズ。

三密を避けるため入店制限が行われ、入店の順番を待つ人の列。

令和2年（2020年）5月19日15時過ぎ：普段なら人の多いけやき坂にも、人影が全くない。

令和2年（2020年）：立入禁止のテープが張られた芋公園。

令和2年（2020年）5月2日：例年なら雑踏となる場所、東京2020大会の延期が決まり、カウントダウンの数字も大きく変わった。

令和2年（2020年）5月26日：緊急事態宣言解除翌日の六本木交差点付近。

コロナ対応をする六本木の夜

令和 2 年（2020 年）の麻布

夜の麻布とコロナ

令和２年（2020 年）の麻布

週末なのにコロナ禍で人が少いていない西麻布3丁目付近、ビルの上から眺める。

オリンピックに向けたカウントダウンも、一年延期に伴い数字が増加した。

六本木ヒルズを中心に、電気が消えているオフィスも目立つ麻布。

六本木交差点もマスクをし、声を潜めそっと移動していました。

いつもは消えているけやき坂下のアート作品の壁が光るイベントも、人出は少ない。

けやき坂下をマスクをして距離を空けて歩く人々。

地元の車とタクシーばかり。信号待ちの車内から撮影。

麻布地区総合支所入り口の、オリパラカウントダウンパネルも数字が増加して仕切り直し。

EXシアター前に人だかり、まだこの頃は外国人も目立つ。外国人も徐々にマスクをする方が増えてきた。

けやき坂も人手が少ない

東京ミッドタウン前交差点。空車のタクシーが目立つ。

年末恒例の六本木ヒルズクリスマスマーケット。人がまばらな中開催された。コロナ禍が終わるのを夢見て、心の支えとなった人も多い。

施設でのコロナ対応

令和 2 年（2020 年）の麻布

今日も撮影転々と 撮影続えて点々と（ありすいきいきプラザ）

入場は消毒・検温大事だね！（国立新美術館）

コロナ禍の収束はいつかねぇ（西麻布いきいきプラザ）

交わす言葉はコロナばかり（国立新美術館）

親しき仲にも仕切り有り（ありすいきいきプラザ）

手消毒お願いします・・・（西麻布いきいきプラザ）

狭いの場所も制限かかり・・・（南麻布いきいきプラザ）

大規模に ルールの周知 施設でも（六本木ヒルズ）

もっと本を借りときゃよかった（都立中央図書館）

狭いの場所も制限かかり立入禁止（芋公園）

コロナ禍での地域の取組

令和２年（2020 年）の麻布

コロナ禍で粛々と・・・令和2年（2020年）、各都道府県では、新型コロナウイルス感染症のまん延の防止等のため、新型インフルエンザ等緊急事態措置等が実施された。六本木安全安心プロジェクトは、これまで月に1回を目安に活動をしてきた地域との協働によるプロジェクト。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、ほとんどの回を中止とした。

何をするにもまず検温！（六本木安全安心プロジェクト）

密を避けただひたすらに黙々と（六本木安全安心プロジェクト）

コロナ禍での災害対策にも備える（避難所運営訓練）

マスクをし、会いに行きます、きみちゃんに。

掲示物、コロナ以外は、貼れません

夏休みに友と会うこともできない

2021年のCOVID-19　コロナ禍の麻布

令和３年（2021年）の麻布

令和3年（2021年）11月：アマビエジェットが羽田空港を目指して麻布の上空を飛行していました。新型コロナウイルス感染症拡大が続くなか、一日も早い平穏な日々を願って日本航空1機（JA613J）にペイントしたもの。

令和3年（2021年）2月11日（日本の建国記念日・中国の旧暦大晦日）：日中友好とCOVID-19の終息を祈る「希望」のライトアップ。

令和3年（2021年）7月22日

令和3年（2021年）10月4日

六本木三丁目、なだれ坂交差点付近（左右とも22時台撮影）。左は東京オリンピック開会式前夜。緊急事態宣言発令中のため人影はまばらだった。右は緊急事態宣言の解除（9月30日）から4日目。街に人の姿が戻ってきている。

令和3年（2021年）5月：麻布十番パティオの「きみちゃん像」。五輪マークのマスクを着けている。

令和3年（2021年）7月22日

令和3年（2021年）10月4日

六本木三丁目、THE ROPPONGI TOKYOの1階周辺（左右とも22時台撮影）。上の写真2点と同じく、左は東京オリンピック開会式前夜。右は緊急事態宣言解除から4日目。街はにぎわいを取り戻しつつあった。

令和2年（2020年）にはひっきりなしに聞かれた、救急車の音も令和3年（2021年）の年末には、COVID-19の新規感染者減少とともに一旦少くなりました。その後、新規感染者の急増に伴い、令和4年（2022年）の年明けには真夜中の救急ヘリの音も聞かれます。

令和2年（2020年）、最初の緊急事態宣言の頃は、すっかり人出が減った麻布地区ですが、令和4年（2022年）2月現在では、これまで人が少なく遠くまで見通せた大通りも、遠くが見えなくなるほど人出が増えています。

新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置による、東京都からの要請を受けて、多くの飲食店等が20時以降の酒類の提供、21時以降の営業を自粛しており、報道されている海外の状況に比べ、感染防止策の徹底がなされています。一方で、慶応仲通り商店街等の区内繁華街では、一歩裏の路地に入ると、蔓延防止等重点措置の期間中であるにも関わらず、深夜も営業している飲食店等があり、多くの人が集まっている光景を目にした。きわめて稀にではありますが、マスクをつけていない人も見かけました。

町会・自治会では、東京都による「新型コロナウイルス感染拡大防止普及啓発事業」への支援にあわせ、感染予防対策の周知のため、除菌シートや除菌スプレー等の啓発品を各戸配布するなどの取組が行われました。その事業実施や都への補助金申請で大変な2021年だったとの声も聞かれました。

麻布で見た東京2020大会　ブルーインパルス

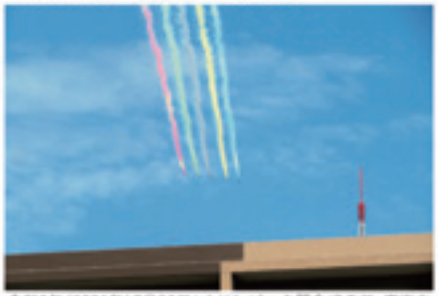
令和３年（2021年）の麻布

令和3年（2021年）7月23日：オリンピック開会式の日、東京上空をブルーインパルスが飛行しました。

令和3年（2021年）7月23日：オリンピック開会式の日、六本木ヒルズの屋上にて。　写真提供：梅村健太郎 氏

令和3年（2021年）8月24日：パラリンピック開会式の日、パラリンピックのロゴの様に綺麗に3つの曲線を描いて飛びました。

令和3年（2021年）7月23日：西麻布二丁目 富士フイルムのビルをかすめ飛ぶブルーインパルス。



令和3年（2021年）7月23日：オリンピック開会式の日、東京タワーに向かって飛ぶブルーインパルス。

令和3年（2021年）7月23日：六本木六丁目 六本木ヒルズの上空を飛ぶブルーインパルス。屋上には大勢の見物人が！

令和3年（2021年）7月23日：オリンピック開会式の日、六本木ヒルズに設置されたカウントダウン時計。
多くの人々が集まり記念撮影。左の写真では開会式の1時間前を撮影しようと、より多くの人々が集まっている。

令和3年（2021年）8月24日：パラリンピック開会式の日、ブルーインパルスを見上げる人々（南青山五丁目交差点付近）。

東京2020大会延期のため、平成30年（2018年）7月の運行開始から3年間も走り続けた、東京2020マスコットデザインのラッピングバス。

令和3年（2021年）7月：東京2020大会開催目前には、日本の各警察署の応援のパトカーが、街中で多く見られた。

令和3年（2021年）7月：東京2020大会の開催を前に、まちのいたるところに迂回をお願いする看板が！

麻布で見た東京2020大会　幻の聖火リレー

令和３年（2021年）の麻布

令和3年(2021年)7月22日(木・祝)：「東京2020大会」オリンピック聖火リレーは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、公道での走行が中止となり、港区立芝公園での点火セレモニーが実施された。

ステージ上でのトーチキス、聖火皿への点火が終わり、港区長からの挨拶が行われた。

点火セレモニーは、新型コロナウイルス感染症対策徹底のうえ、「無観客」で開催された。

【幻の聖火リレー】外苑東通りから六本木交差点を右折した聖火は、六本木ヒルズ（六本木六丁目交差点）を左折、けやき坂を下って芝公園へ向かうはずでした。　写真左：六本木ヒルズ、写真右：六本木交差点付近

聖火皿を前にしたフォトセッション。夏の夕焼け空がまだ残る午後7時過ぎ、点火セレモニーは、無事に終了した。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、1年延期された「東京2020大会」が、令和3年（2021年）7月23日から開催された。

東京都区内におけるオリンピック聖火リレーは、「公道の走行を見合わせ、セレブレーション会場で点火セレモニーを実施」と決定され、港区では、東京2020大会の開会式前日7月22日午後6時20分から港区立芝公園で点火セレモニーが開催された。

初めに聖火が壇上に現れ、関係者一同が集まる。

聖火を持ち満面の笑みを浮かべる人から、聖火を持ち緊張の表情を浮かべる人へと、次々に聖火が受け渡されていく。

聖火が無事に手渡されたランナーは安堵感と笑い顔になった。

ステージ上でのトーチキスが進むたびにに関係者の拍手が鳴り止まない。

会場は、一般入場がないなかでも関係者で一杯。この人たちも、ともに拍手をしている。

次々とランナーが交代していく。交代していくなか夕闇がどんどん迫ってくる。

終了時間は午後7時。聖火ランナーが全員集まり、港区長の挨拶で終了となった。

無事に点火セレモニーが終了し、「東京2020大会」オリンピックがこれから始まる。

資料：「広報みなと2021年7月21日　東京2020大会特集号」

麻布で見た東京2020大会　無観客でも祝い・手伝い

令和３年（2021年）の麻布

令和3年（2021年）7月23日：赤羽橋交差点
オリンピック開会式当日の東京タワーのライトアップを撮影する人達。

令和3年（2021年）7月23日：国立競技場
オリンピック開会式は午後8時に始まり、花火が打ちあがった。

令和3年（2021年）6月：国立競技場
東京2020大会を1か月後にひかえ、静かにたたずむ。

令和3年（2021年）1月：東京タワー
2021年、東京2020大会を迎える年、新年のライトアップ。

令和3年（2021年）6月：国立競技場駅と国立競技場
国立競技場方面改札（A2出口）にはエレベーターが設置されている。

令和2年（2020年）6月：麻布地区総合支所
「TOKYO2020」巨大ラッピング。下には区長選挙の公告が。

令和3年（2021年）6月：日本オリンピックミュージアム
オリンピックシンボルの前で、多くの人が記念撮影。

令和3年（2021年）8月26日：お台場
トライアスロン競技（東京2020大会 パラリンピック）の開催を間近に控え、26日未明の路上コース設営。

麻布に関わる多くの人たちが、様々なかたちで東京2020大会に参加しました。

古川のいきものたち

令和３年（2021年）の麻布

高い石壁の上からカワセミが魚を狙っている所に、マガモのつがいがやって来た。気にならないのかな？

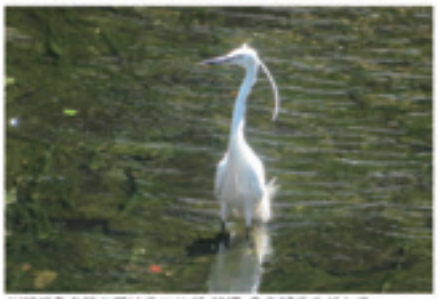
コサギに監視されながら、水藻などを探す子どものカルガモ達。

エサ取りの訓練中のカルガモの子どもたち。
上手く潜れるかな？

この頃、ダイサギが姿を見せるようになった。
エサになる小魚（ボラ）等が増えてきたのかもしれない。

首都高速の天現寺橋出口には、珍しい信号機がある歩者横断歩道があります。

魚をさがして川辺を移動するアオサギ。



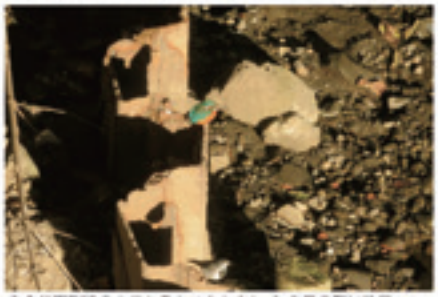
川縁で魚を待ち受けるコサギ、結構、魚を捕るのが上手。

この頃は東京湾から遡上して来るボラの大群が見られる。時には渦を巻いて移動することもある。

桜の満開の頃の白金公園橋付近。コロナ禍でなければ近くの人たちの格好のお花見場所になっている。

亀屋橋付近にやってきたゴイサギ、魚の流れを待ちわびている様です。

天現寺橋の前を飛ぶコサギ。



白金公園附近のカワセミとハクセキレイ。夕日の影に注目。

天現寺橋の横断歩道橋の階段。
「渋谷川・古川の清流の復活」の看板が！

桜の紅葉、写真で撮ると美しく映える。
天現寺橋の横断歩道橋から見た古川。

古川は、港区と渋谷区との境界・天現寺橋から古川橋を経て、一の橋から赤羽橋に至り、その後芝公園に沿って流れ、旧芝離宮恩賜庭園付近から東京湾に注いでいます。昭和初期には舟運に利用されていましたが、都市化と共に交通手段の発展により状況が大きく変わりました。水質の悪化や水量の減少も目立ち、平成7年（1995年）3月より東京都は清流復活事業として、渋谷川・古川での清流の復活を始めました。この水流は新宿区上落合にある落合水再生センターで高度処理した再生水を利用しています。

東京都では都民が水辺に親しむことができるとともに、水辺に多様な生物が生息できる環境に、水質向上・水量回復に取り組み、心やすらぐ水辺づくりをめざしています。

祝70周年 港区立高陵中学校 ～歴史を伝え、未来にはばたけ～

～歴史を伝え、未来にはばたけ～　令和３年（2021年）

「港区立高陵中学校　未来創造プロジェクト」Facebookページ

「港区立高陵中学校 創立70周年行事への道」地域向けチラシ

【コロナ禍の中、限定された来賓と生徒のみで祝われた高陵中学校70周年】

令和3年（2021年）、コロナ禍の中、創立70周年を迎えられた港区立高陵中学校では、70周年を記念した一連の行事（創立70周年行事）で来校される来賓の方々、在校生、保護者、卒業生をはじめ、ゆかりの方々へ向けた展示の一環として、「麻布未来写真館」でこれまでに作成した多くのパネルの貸し出しをさせていただきました。

創立70周年行事は、緊急事態宣言中の令和3年（2021年）6月から始まった。緊急事態宣言中であることを鑑み、大規模に、また密にならないよう、ピロティベンチ前のガラスエリアへの数点のパネル展示からスタート。その後、緊急事態宣言の解除、まん延防止等重点措置にあわせて、順次展示スペースを拡大し、最終的には入口ロビー、昇降口、図書館などに、効果的に工夫を凝らして多数のパネルを展示していただきました。

令和3年（2021年）11月6日に、限定された来賓と生徒のみで祝われた高陵中学校70周年式典の後、麻布未来写真館メンバー有志で学校に伺い、学校に残る古い写真の数々をデジタルデータ化させていただきました。

ご提供いただきました貴重な写真を保存するとともに、今後、パネル制作時などに有効活用させていただく予定です。

メンバーのことば

副座長　入江　誠

毎日のようにオミクロンとかワクチンが眼・耳から入って来る世の中、いつまで続くのでしょうか？外出の時、半分位はマスクを掛けわすれます。歳のせいだとは思ってはいません。今までの習慣がそうさせているのです。

古川を歩いていた時、或るお寺の掲示板に、こんな文言が貼ってありました。

「**水急不流月**」とあり、さらに「**みずきゅうにしてつきをながさず**。」と書いていました。情報の溢れた混沌としている社会の中で数ある世間の波風に流されず、心静かに自分を見つめ直して行きたいものですと注釈入りです。

どんな急流でも、そこに映っている月までは流されない。ということは、マスコミ、口コミなどの情報に惑わされないように正しく理解しましょうと。

ここに来てウィルスの勢いも収まりつつありますが、自分はうつされたくないし、万が一でも頂きたくないので、マスクはいつも予備を携帯しています。

ちょっと明るいニュースです。麻布地区から少し外れますが、昨年の５月、檜町公園に足を運んだ時、今までに目にしたことのない水鳥が池にいました。「**ノバリケン**」というそうです。沖縄では観音アヒルと呼ばれ食用として飼育されているほか、野生化した個体も多くみられるそうです。きっと、どこかで飼われていたのが逃げ出したのでしょう。

令和４年（2022 年）２月 23 日にも元気に水面を泳いでいました。下の写真がノバリケンです。

ついでに、古川の白金公園で撮ったカワセミの写真を紹介いたします。

副座長　鈴木 順二

麻布にいても、自然の脅威を肌で感じる１年でした。世界をおびやかす新型コロナウイルス、大型化した台風・ハリケーン、地震や噴火がひきおこす災害 －自然が「まさか」と思うような力をふるっています。

どの生物もなんとか生き抜こう、命をつなごうとまさに懸命です。そんな生物を長く見つめてきた一人のナチュラリストが、こうつぶやくのを聞いたことがあります。

「よく、自然が好きだと言う人がいますけど、私は逆に、知れば知るほど自然が怖くなります。」あのつぶやきの意味を、わたしはようやく分かるような気がします。

気候変動、ヒートアイランドの進行など、環境に負荷をかけすぎると人間の生活にその反動が直接およぶこともはっきりしました。私たちが快適な生活を送って、子や孫に持続可能な社会を引き継げなくなれば申し訳ありません。現代人は自然界の摂理を知る知恵をもっているはずです。

宇宙のかなたにあるというリュウグウではなく、目の前にある「浸水ハザードマップ」、「液状化マップ」などを参考にして、まず自分の足元を見すえていこうと思います。

メンバー　水野 禮子

令和４年コロナ感染が続く中、健康を守りつつ生活を続けていく中、地区の魅力を発掘し、今昔の写真を広く発信するため、まち歩きをし、その定点で撮影し、その写真をパネルにしてパネル展を開催しております。区役所・支所・都立中央図書館・富士フイルム・東洋英和等で。

いま見立つ建物は、東京タワーに近く麻布台に建ちつつあるタワーで今現在東京タワーを抜いてしまい、ちょっとのあいだ東京一高いタワーになるとのことですが、地元民としては、やはり東京一の東京タワーが小さくなり寂しい限りです。夜のライトアップが月ごとに代わり、心の癒しになっていますので、ライトアップはぜひ続けていってほしい願望です。

メンバー　椿 由美子

マスクが手放せない 1 年だった。外出の折に撮影した街中の風景や道ゆく人びとの姿を追っていくと、そんな言葉が真っ先に思い浮かびました。

そのような中でも、公園やひっそりとした住宅街、路傍、学校の敷地などで花や実をつけた草木の姿を目にすると、平穏な日常を取り戻したような安堵感を覚えたものです。

令和 3 年 10 月 21 日、西麻布いきいきプラザで開催された地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」との連携イベントに参加したことも楽しい思い出として心に残っています。感染予防対策を講じつつ、長年、地域で暮らしてこられた方々から昔の麻布界隈の様子や、ご贔屓にしていたお店のことなど貴重なお話をうかがうことができました。

10 月末に行われたまち歩きでは、南麻布の民家の玄関先に色づいたカラスウリやナツメの実を見つけ、その可愛らしい姿に心がなごみました。当日はハロウィーンということもあり、街のそこかしこでカボチャのランタンの飾りつけを見かけ、ちらほらながら、仮装して道ゆく人の姿もありました。

この 1 年、六本木界隈を歩くと必ずといっていいほど目がいったのが目下、再開発工事が進む「虎ノ門・麻布台プロジェクト」の顔ともいえるメインタワーの姿でした。麻布未来写真館では、再開発がはじまる前の時代から界隈を歩き、麻布郵便局や昔ながらの木造家屋が建ち並ぶ我善坊の街並みを撮影してきました。2023 年の春に誕生するという新しい街に思いを馳せつつ、少し離れたところから、メインタワーの“成長”を見守っています。

コロナ禍の中、高陵中学校、青山霊園管理所、地区内のいきいきプラザ、港区役所ロビー、総合支所、そしてフジフイルムスクエアなど、いくつもの場所でパネルの常設展示をはじめ、パネル展の機会をいただけたことに感謝しています。

オレンジに色づいたカラスウリ（左）と、リンゴのような風味があるというナツメの実。いずれも南麻布にて。

日々、高さを増していくメインタワーを見やる。 左：2021年（令和3年）7月29日、六本木交差点周辺から撮影。 中：同年10月21日、六本木ヒルズ、メトロハット周辺から撮影。 右：2022年（令和４年）2月9日、六本木交差点周辺から撮影。

メンバー　及川 廣子

今年もコロナ過で活動は限られながらも、麻布未来写真館の 10 年。その継続は素晴らしいことである。

麻布未来写真館のパネル展示会場に足を運び、写真と向き合い撮影者の気持ちを考えたりするようになった。「この風景を残したい」撮影のその瞬間の思いは人それぞれかもしれないが心も投影されるのかもしれない。と自分の中の新たな発見が妙に嬉しいのもメンバーになれたからこそである。

左から 1 枚目の写真、私はある建設中のビルを撮影した。あれよあれよと高くなり東京タワーを追い越したかのように見えるがまだまだ建設途中である。あの辺りに歴史のある郵便局があり、私はあることの記念日にと口座を開設したのだが、今や郵便局は面影すらもない。そして私の記念日も消えた。

未練なのか建設中のビルを見上げて撮影。

右の写真は、麻布のきみちゃん像である。きみちゃん像と言えば山下公園にもきみちゃん像がある。

赤い靴履いてたきみちゃん像二つ麻布の十番謂れ悲しも

メンバー　大原 美帆

今年から参加させていただいています。

麻布の古い写真と今の景色を見比べながら、風景は変わっても住んでいる人の生活は変わらず暖いと伝わる写真を撮っていきたいと思います。

令和4年（2022年）：薬園坂 坂上から

昭和50年（1975年）：薬園坂（南麻布3-10と11の間を南に四之橋に下る坂）坂上から　　写真撮影：田口政典 氏、写真提供：田口重久 氏

メンバー　野村 知義

「麻布を語る会」への参画は、平成 18 年の発足時期から３回ほど出席致しました。しかし業務が忙しくなり途中で休止致しました。その後、分科会から廃止された小学校の資料を閲覧したい旨ご連絡を頂き、教育委員会と相談し資料閲覧に立ち会いました。おかげ様で資料は本分科会活動報告書の写真集に掲載され感謝しております。

記憶や記録にとどめられる資料は、後世に語り継がれる重要な史料です。本分科会の役割については､様々な事象を記録（写真、録音、紙資料など）することでもあり、後世の方々が視点を変えて見ることもできる貴重な情報収集活動です。

写真１は、拙宅屋上での雨上がりの床に映り込む東京タワーです。今では、新築ビルに隠れて輝く港区のシンボルの雄姿を見ることができません。写真２は､前述の小学校校庭に飛来する｢ハクセキレイ｣。写真３は、地域の賑わいを創出しようと関係部署に希望を伝え実現した「おかめ桜」です。今は、ほのかに色づいたつぼみでありまもなく開花します。写真４は、現在新築工事中の東京タワーを超える高さのビルディングで拙宅からの眺望です。めざましく変貌する光景を記録することは麻布を語る上で必須です。住むまちの移り変わりを些細なことでも記録に残し後世に伝えられるよう楽しく活動してまいります。

写真２　ハクセキレイ（撮影 2021年）

写真３　おかめ桜（撮影 2021年）

写真４　超高層ビルの建築（撮影 2022年）

写真１　ビル屋上濡れた床に映り込む東京タワー（撮影 2020年）

メンバー　加藤 生磨

「麻布未来写真館」のパネル展に参加していただいた皆様、大変ありがとうございました。
アンケートを拝見させていただき、我善坊谷一帯の再開発工事の反響にとても励みになりました。
今年度はようやく開催できるようになったオリンピックを中心にパネル作成を行ってまいりました。

自主活動でパラリンピックの開会式に何か変わった麻布の景色に出会えないかと西麻布を散策していたら、即席で作られた特殊な車両通行止めの標識に出会うことができました。

西麻布１丁目側の外苑西通り沿いに西麻布郵便局が移転してからこの辺りに少し活気が戻ってきたような気がします。

20 年位前はこの通りに文房具屋や煙草屋、ガス屋さんや薬局、飲食店があったのですが、飲食店の一部を除いてお店がなくなった時期があったのでこれからの景色の移り変わりが楽しみです。

虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業の進行具合も目が離せないのですが、どうも新しいものより消えゆくものに執着してしまう性格みたいで、ついつい麻布郵便局の外壁の名残を撮影してしまいました。

これからも少し違った角度で麻布のまちの魅力を記録できればと考えていますので「麻布未来写真館」の活動に興味を持っていただけると嬉しいです。

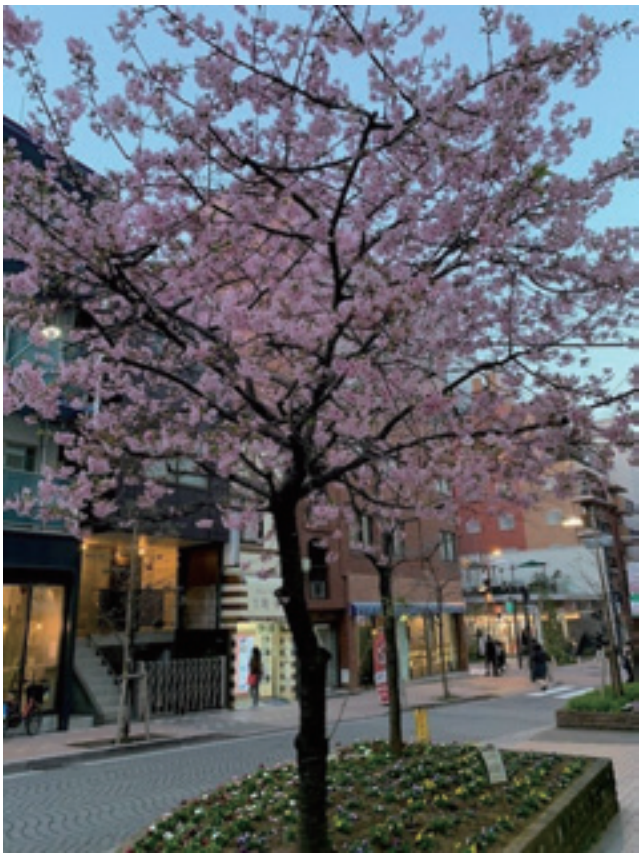
メンバー　岡﨑 純子

コロナ禍のおうち時間で、麻布未来写真館の活動に参加した時からの写真を整理していますが、桜の季節の写真が多かったことに驚きました。初期の頃は、桜が主体でやたらシャッターを押していたように感じます。年を追うごとに、人物や建物等を入れることを意識して撮影するようになりました。

麻布、六本木地区の桜の名所と言えば、六本木ヒルズのさくら坂と毛利庭園、有栖川宮記念公園、麻布山善福寺、国際文化会館、政策研究大学院大学等々。それ以外にも桜を楽しめるスポットが街中に数多くあります。

二月中旬、麻布十番の暗闇坂下の河津桜が「もうじき春だよ。」と咲き始めます。三月中旬から下旬には、あちらこちらでソメイヨシノが花開きます。2021 年 3 月は撮影する時間があまり持てず、とても残念でした。ソメイヨシノより早く咲くなだれ坂の陽光も、飯倉公園のソメイヨシノも葉桜になってしまいましたが、思いがけず、素敵な光景を撮ることが出来ました。

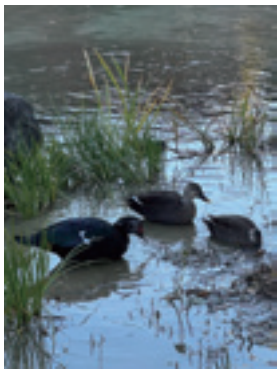
2022 年は、どんな麻布の桜に出会えるかワクワクしてきます。



令和3年（2021年）2月21日：暗闇坂下の河津桜

令和3年（2021年）3月26日：なだれ坂 陽光

令和3年（2021年）4月1日：飯倉公園



メンバー　荒澤 經子

これまで、未熟ながら色々な写真を撮って来ましたが、今回は東京ミッドタウンの檜町公園の池の前で自然風景の動く被写体に思わずシャッターを切りました。

メンバー　吉川 一郎

私はもうかれこれ 10 年以上写真を撮影して来ました。自分自身では結構いい写真を撮れるようになった気になっていました。私の趣味もいいものであると自負していました。麻布未来写真館にも入って貢献できていると思っていました。

私の自宅にはアーモンドの木が植えてあります。今年はアーモンドの花が一斉に咲き出しました。枝に花が連なっています。それは見事な満開です。ただ、咲いている時間が短く、すぐに散ってしまうと言われています。

私にはアーモンドの花の撮影ができる時間がありません。このため、娘に撮影を依頼しました。娘は初めて花の撮影をします。私のカメラを使用するのも初めてです。そのため、記念的に撮影してくれればいいと思っていました。あまり期待していなかったので 2 日後に現像したが、写真を見て撮影のうまさにびっくりでした。自分の撮影の下手さに愕然としました。娘に嫉妬しています。

でも、気持ちを持ち直し、自分の能力は如何ともしがたいがこれでいいのだ、と思い直しました。大上段に構えて言えば、ほんの少しでも麻布未来写真館のために協力することが私の責務と思うようになって来ました。上手に撮影できなくても、麻布未来写真館の人たちと一緒に行動することと思うようになりました。今後とも麻布未来写真館で下手な写真撮影でも活動できるようがんばります。よろしくお願いします。

メンバー　宮崎 則行

私の故郷は東京都港区です。

父も母も東京で生まれ、私も幼少期は麻布谷町（現在の六本木１丁目）で友と遊び、現在は西麻布（旧：麻布笄町）に住んでおります。

学生時代には学友が「夏休みには田舎に自転車で行くんだ！」と話しているのを聞くととても羨ましく感じておりました。

そんなある日、偶然に訪れた麻布区民協働スペース３階で懐かしい写真に出逢いましたそれが「麻布未来写真館」が作成したパネル達でした。

パネルを観ているうちに自分が生まれそして育った地のことにあまりにも無関心だったように思えてきました。

そして「自分にも故郷が有るではないか！」自分もこの様な活動をおこなって行こうと思っていた矢先に区の公報に「麻布未来写真館」のメンバー募集のお知らせが掲載されており参加させて戴きました。

令和３年度からの参加で、その間すべてがコロナ渦での作業となりましたが、素晴らしいメンバーに出逢うことが出来、故郷を知る良いチャンスに恵まれたと感謝しております。

これからも大きく変わりゆく麻布ですが、これからもっと新旧の麻布のステキを見いだして行けたらと思っております。

掲示も多国語で表示されており「様々な国の人達が暮らしている街なんだ！」を実感！

往年のアパートと新しいマンションが混在し共に生きているステキな街を発見！

途中立ち寄った可愛らしい神社で心打たれる願いに出逢いましたo(^▽^)o

周辺の景色は大きく変わってしまいましたが、私を幼稚園時代から見守ってくれている大銀杏は変わらずに私を見守ってくれていました！

写真は総べて10/31笄川暗渠沿いまち歩きにて撮影

メンバー　街いく探検隊（若松 保治）

街いく探検隊は、将来の街の担い手となる子ども達と街を探検しながら清掃活動をするボランティア団体です。街を探検していると、麻布には面白いもの、珍しいものがたくさんありますが、特に子ども達が興味を持つのが昔の街の姿や古い物です。

麻布の街に突然現れる橋の欄干や手押しポンプに、子ども達は興味津々です。そして、埋められた地下壕の入り口もその一つでした。目をつぶれば浮かぶ原風景や街の昔の様子、そこに想いを馳せることが、まちの未来を想像することにつながるのではと思います。麻布未来写真館の活動で、今と昔のまちの様子を訪ね歩くことは、将来の街の担い手たちにまちを受け継ぐために、大切な活動だと思います。これからもこの活動に団体として、個人として参加していきたいと思います。

子ども達がゴミを拾い、大人がゴミ袋で引き受けます。
小さなコミュニケーションを大事にしています。

麻布消防署の裏手の坂で見つけた橋の欄干らしきもの。
子ども達も興味津々です。

“昔の子ども”から “未来の大人達”へ、昔の麻布のまちの様子や想い出を伝える活動もしています。

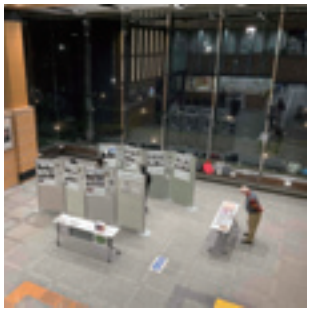
活動詳細はQRコード、またはウェブで「街いく探検隊」で検索！

毎月1回、六本木ヒルズに隣接する妙経寺さんから探検しています。

慶應義塾大学でのワークショップ、会場でのセッティング中の様子

港区のワクチン接種に関連した掲示物、いきいきプラザのトイレに貼られたシール

高陵中学校、図書館での写真パネル展示の様子


港区役所での写真パネル展示のセッティング中の様子

港区役所ロビーで行われたパネル展の様子。設置された報告書がすぐに無くなり、何度も追加頂きました。

いきいきプラザでの、交流のひとこま

こちらのメンバー有志と、高陵中学校に伺い、貴重な写真資料のデジタル化をさせていただきました。

高陵中学校にて、写真のデジタル化を実施中の様子

鉄道旅行で使われていたと思われるサボも丁寧に補管されていました。

座長　近藤 敏康

活動報告書をご覧いただきありがとうございます。

新型コロナウイルスの影響を受ける中の活動も令和元年、二年に続き、三期目となり、昨年度に引き続きリアルとオンラインを併用して活動してまいりました。本来なら観客を入れたオリンピック・パラリンピックがあり、麻布地区だけでなく日本全体が盛り上がるはずだったのにも関わらず無観客となり瞬く間に過ぎ去った印象のある中、創意工夫を行い困難なコロナ禍を乗り切っておられる麻布の方々の様子や、麻布に生きている野生の生き物達の様子などを含め、未来の麻布人に残す今の麻布の様子を写真解説パネル制作活動を行いました。また、定例のパネル展（麻布地区総合支所、港区役所ロビー、各種公共施設、フジフイルムスクエア）、いきいきプラザでのちょこっと立ち寄りカフェでのお年寄りとのワークショップ、高陵中学校 70 周年活動への協力、慶応義塾大学での地域記録活動の成功事例としてパネルディスカッションへの参加なども行うことができました。

こちらを書いている 2022 年 2 月現在、新型コロナウイルスオミクロンによる第 6 波が拡大、なかなか収束が見えない中ですが、今後に向け着実に進歩していけるよう、大人の学園祭的精神で、メンバーの得意な分野を尊重し、認め合い、活かしつつ、関係者一同一致協力して、ボランティアとして、活動しております。

今後も引き続き、活動を継続して参りたいと思っておりますので、古い写真のご提供、麻布未来写真館へのご参加など、ご検討よろしくお願い申し上げます。尚、今後も公共施設などでの常設パネル展示や、期間限定のパネル展など、チラシや広報、ネット、SNS などでお知らせいたしますのでぜひ多くの方にご覧頂けたらと思います。

活動にご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

見学者　石井 諒太

多様な主体によって異なる都市の記憶をどう残していくのかについて考えるコレクティヴ・メモリーという企画のための勉強会が、慶應義塾大学アート・センターで実施されました。その実践者として麻布未来写真館さんにお話を伺いました。そのご縁で慶応大学の学生の私が実際の活動を見学しました。

地域の皆さんで共に参加しながらパネルを作っていくプロセスを間近に見ることができました。区役所の担当者さんはパネル製作に干渉するのではなく、場所やロジ面のサポートで見守っていました。見学した日はパネルのキャプション作成が主な作業で、意見が滞ることないように雑談形式で写真について話していくうちに、写真に紐づく当時の幅広い記憶の輪郭が浮かび上がっていきました。また、それぞれの参加者がやりたいことや得意なことをお持ちで、それがパネルに反映され個性が活かされているのと同時に、他の人も楽しむことができることに気が付きました。

慶応大での勉強会の最後に、麻布未来写真館の活動は文化祭のようだとの参加者の声がありました。製作に参加しやすい空気感と、区民の方々自身で作っていく態度を目の当たりにして、本当に文化祭のようだと感じました。参加者の一人から今後作っていきたいパネルについて話を聞くこともできました。皆さんのこれからの作品も楽しみにしているので、今後も見学を歓迎頂けますと大変嬉しいです。

講師　達川 清

麻布未来写真館 まち歩き撮影に集まった新旧メンバーこれから出発します。

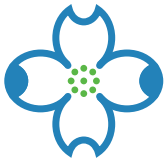
裏道を探索して行くと港区ならではのとても素敵な佇まいなのです。

この日は丁度ハロウィンの日で子ども達も親も喜び駆け回っていました。

大使館も多く有栖川公園のあたりはインターナショナルな下町の風情です。

野生化したインコの群れにびっくりしたりと何時も発見があり、楽しみが尽きません。

これからも新たな視点で麻布地区を見つめて行きます。

区の木	区の花	
		
ハナミズキ	アジサイ	バラ

港区のマークは、昭和 24 年 7 月 30 日に制定しました。
旧芝・麻布・赤坂の 3 区を一丸とし、その象徴として港区の頭文字である「み」を力強く、図案化したものです。

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つこどもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和６０年８月１５日

港　　区

刊行物発行番号　2021253-1435

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会　令和 3 年度（2021 年度）　活動報告
令和 4 年（2022 年）3 月 発行
編集・発行　港区麻布地区総合支所協働推進課
〒 106-8515　東京都港区六本木 5 丁目 16 番 45 号
電話 03-5114-8812　ファックス 03-3583-3782　https://www.city.minato.tokyo.jp/

◎禁無断転載複製

麻布未来写真館

参加メンバー随時募集！

麻布未来写真館では、メンバーの募集をしています。皆さまもぜひ参加してみませんか？
会議など活動の見学が可能です。お気軽に問合せください。

古い写真・資料を探しています

明治～平成 10 年代頃の写真・資料等を募集しています。
麻布地区の建物や風景、お祭りなどの懐かしい写真がありましたら、下記問合せまでお寄せください。

地域 SNS アプリ「PIAZZA」

身近なイベントや日常の暮らしに関する情報交換などを通じて、地域密着型のコミュニケーションを促進するためのアプリ「PIAZZA」に、麻布未来写真館の活動を投稿しています。ぜひご覧ください。

「麻布未来写真館」の情報はこちら

港区ホームページ
https://www.city.minato.tokyo.jp/
麻布未来写真館　検索

問合せ　03－5114－8812
港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当